

大山町議会議員 杉谷 洋一 様

大山町議会議員 加藤 紀之



平成 30 年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成 30 年 4 月 12 日 (木) ~ 13 日 (金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研 修 内 容	( 内 容 )	( 場 所 )
		(1)豊岡市の観光戦略	滋賀県大津市
		(2)インバウンドが切り拓く地域の未来	
		(3) 観光・地域振興のあり方を考える	
		(4) 京菓子老舗女将のとおきのお話	
4	研 修 結 果 又 是 概 要 ( 意 見 ・ 感 想 )	<p>講師はそれぞれ、(1) 豊岡市長 中貝宗治 (2) 日本インバウンド機構 中村好明 (3) 立教大学観光研究所所長 東徹 (4) 笹屋伊織女将 田丸みゆきの各先生による講義であった。なかでも、中貝先生と田丸先生のお話がとても興味深いものだったので、その点を中心に感想を述べてみたい。</p> <p>中貝先生の講義では、豊岡市での観光戦略を立てるにあたり、まず細かな分析からスタートされたようだ。</p> <p>人口の移動を年齢や性別などで分析すると、10代後半で市外へ流出した若者が20代以降に帰ってきていないことが分かる。帰ってこない理由も分析したところ、「地方はつまらない・閉鎖的で自分たちの出番やチャンスがない・貧しい」と考えていることにあるようだ。それならば、『地方で暮らす価値を創造する』ことで若者に帰ってきてもらおうと考えられたようだ。</p> <p>なかでも「地方は貧しい」というイメージを払拭することに第一に取り組むため、豊岡市の純移出額で1位である宿泊を伸ばす、そのために宿泊業の閑散期をインバウンドで補う戦略が立てられた。閑散期を伸ばせば、パートやアルバイトでの雇用から正社員としての雇用が増える、と見込んだのだ。その結果は現在の城崎を見れば触れるまでもないところであろう。</p> <p>①小さな世界都市・尊敬される都市②情報発信③データ収集と分析④コミュニケーション、に重きを置き、①では『歴史を引き継ぎ、芸術文化を創造し、環境への取り組みを推進する』ことで、海外紙からも高い評価を受け世界に発信され、インバウンドを呼び込むことに繋がった。</p> <p>その他にも、日本人は忘れがちなインバウンドに喜ばれる小さな工夫でリピーターの獲得にも成功しているようだ。</p> <p>京都観光大使でもある田丸先生のお話しはとても興味深いもので、なぜインバウンドが京都を愛するのかを理解するには十分なものであった。</p> <p>『京都人のおもてなし』に込められた深い意味、そのために常に心掛けていることを伺い、他地方で暮らす自分の考える『おもてなし』の心とは雲泥の差があると感じ、改めて振り返る良い機会となった。一例を挙げると、京都人が御進物</p>	

を受け取る際に何回か断る理由としては、一度で受け取ると御礼も一度だけになるからだと言われ、感心させられた。

『和菓子には祈りが込められている』ことの例として、柏の葉は新芽が成長しないと古い葉が落葉しないことから、子どもの成長と子孫繁栄を願うお菓子として端午の節句に柏餅が食べられるようになったと話された。その由来を聞き、改めて柏餅を食べたくなると同時に、伝統文化を大切にしているからこそ、インバウンドにとって京都が特別な地である理由を垣間見た。

女将が経験した間違った『お客様第一主義』の話では、お客様に融通を利かせるためにとった対応を菓子職人に諭され反省したものであったが、職人の拘りこそ『おもてなし』の極みだと感じた。

商売をしている人だけでなく、そこに住み暮らしている人達の考え方こそがインバウンドを引き付ける決め手で、一朝一夕でインバウンドを呼び込めるようになるものではないだろうが、人口減少が加速する地方においてはそこを磨かねば生き残ることは出来ないだろうと感じる二日間だった。